



この記事がすごい！ 毎日新聞今週のこだわり4本

2022年2月13日号

編集／毎日新聞社カスタマーリレーション本部



迫る

金色の翼広げて・スキージャンプ 小林陵侑選手

2月13日(日)＝1面

北京冬季オリンピックのノルディックスキー・ジャンプ男子個人ノーマルヒルで金メダルを獲得した小林陵侑選手＝写真＝が、12日の個人ラージヒルで「2冠」に挑戦。ノーマルヒルで金メダルを獲得した直後は「2冠」への期待が強まり、プレッシャーを感じてもおかしくない状況でしたが、小

林選手は「楽しみって言葉しか出てこない」と語っていました。

所属チームの監督は、選手を続けている葛西紀明さん（1月30日付の「迫る」で紹介）。葛西さんに金メダルを掛けることも目標に厳しい練習を積んできました。

若きジャンパーが再び大舞台を前にした時の心境に迫ります。

特集ワイド

「通年国会」やらない日本

2月15日(火)＝夕刊特集ワイド



新型コロナウイルスの変異株「オミクロン株」が猛威をふるっていますが、もし不測の事態が起き、新たな法律が必要になった場合、国会が開いていなければすぐに対応できません。日本の国会には世界でもまれな会期制度

があるからです。1970年代の田中角栄政権時代に「通年国会」を模索する動きもあったといいますが、会期制を続ける与野党の事情や今後の展望について、元参院議員の平野貞夫さん（86）＝写真＝らに聞きました。

若者に声をかけ、居酒屋を尋ねる男2人組（右側）。この日は確認できただけで約7時間、50人に声をかけた＝2021年5月、小鍛冶孝志撮影（画像の一部を加工しています）



若者に忍び寄るマルチ商法

2月17日(木)＝くらしナビ面

東京や大阪の主要駅前で「いい居酒屋知らない？」と声をかける若者の集団がいます。誘いに応じ、ついていった先は違法の疑いがある「マルチ商法」でした。そ

毎日新聞は取材で、その組織のビジネスモデルやマイナードコントロール術を解明しました。恐ろしさをよく知る組織の被害者は「軽い気持ちで誘いに応じず、立ち止まっ

論点

「推し」を考える

2月18日(金)＝オピニオン面

「推し活」という言葉をご存じでしょうか。アイドルなど自分の好きな対象を応援することを指し、2021年の新語・流行語大賞にもノミネートされました。

「推し」をテーマに、自身も元横綱の白鵬関の推し活をしていたライターの和田静香さん、カウンセラー歴30年の公認心理師の伊藤絵美さん、「推しエコノミー」の著書がある中

山淳雄さんに、それぞれの立場から論じてもらいます。



竹橋の窓辺から

編集後記

毎日新聞創刊150年を記念したオンラインイベント（一部は会場開催）展開がよいよ14日からスタートします。毎日の新聞はジャストリズムの広場であると同時に、たくさんの魅力的な事業を主催しています。業を主催する多彩な「顔」を外部の著名な方々に語っていただく機会です。宅配購読者無料プランに登録すれば無料視聴もできます。併せてご検討ください。（千代崎聖史）



毎日新聞

